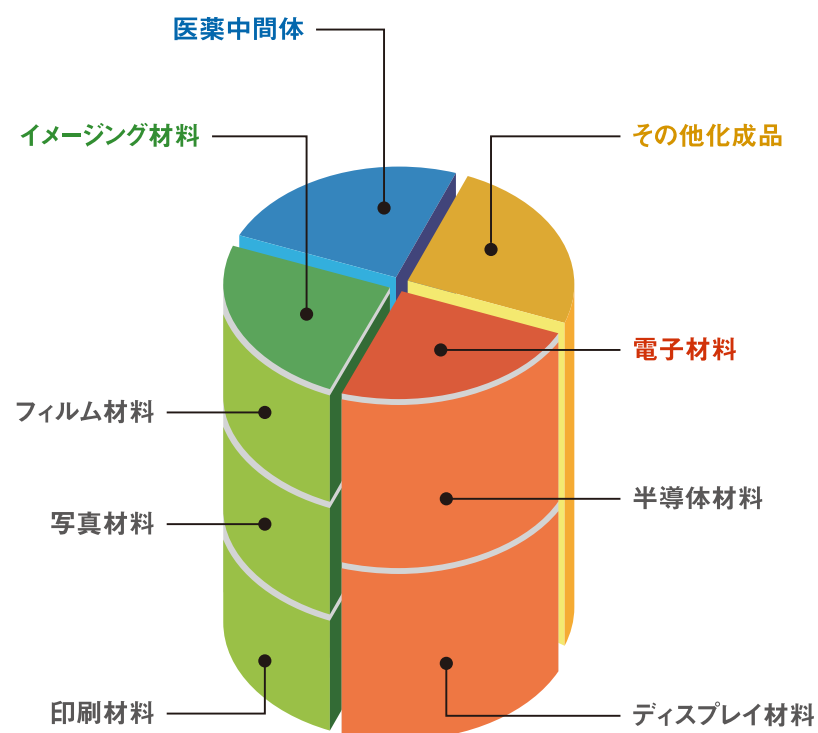


事業紹介

技術立社の基盤を支える

独自の発想、最新の設備・技術。

「化学」が持つ「不思議なチカラ」を暮らしに、社会に、未来に役立つ「特別なチカラ」に変えていく。当社には、研究者が直接お客様のニーズをお聞きし、独自の視点、発想力と、歴史の中で蓄積した経験とノウハウを活かし、大量生産を可能にする技術力があります。そして、その「特別なチカラ」を生み出す設備群。安全・安心で高い品質を維持しながら、世の中に安定して送り出すために、品質保証、安全管理、および環境管理体制の構築。そのトータルな力が一歩先をゆく「スペシャリティ・ファインケミカルメーカー」、技術立社のダイソーケミックスを支えています。



各セグメントの概況について

電子材料分野は、世界的な半導体需要の拡大のなか、当社半導体材料では先端フォトレジスト材料の他、i線フォトレジストなどレガシー世代の需要も旺盛です。イメージング材料分野は、フィルム用材料、印刷材料ともに売上高が増加しました。写真材料は、インスタントカラー用色材が需要回復傾向です。医薬中間体分野は、アビガン中間体の製造が終わりましたが、主力製品が堅調に推移しています。

中期経営計画達成に向けてのチャレンジ

福井工場に2023年2月完成予定の電子材料工場建設に加えて、同年9月完成予定で電子材料向けの設備増強を計画しました。生産能力の増強により、半導体材料の旺盛な需要を取り込みます。フラットパネルディスプレイ材料も既存製品と次世代表示材料の需要増加に対応します。写真材料では、インスタント用色材の需要増加に対応します。医薬中間体では、需要堅調な主力製品を安定的に納入してまいります。



取締役
常務執行役員
みなみ しゅういち
南 修一

事業ポートフォリオ

セグメント	2021年度 売上高構成比	主な製品	2021年度 振り返り
電子材料	68%	先端フォトレジスト材料、i線フォトレジスト用感光性材料、光酸発生剤、カラーフィルター用材料、有機EL材料、永久膜用材料	半導体用感光性材料、フラットパネルディスプレイ用材料は販売数量、売上高ともに増加いたしました。
イメージング材料	22%	フィルム用材料、記録材料、インスタントカラー用色材	フィルム用材料、写真材料、印刷材料に関して需要回復傾向であり、販売数量、売上高ともに増加いたしました。
医薬中間体	7%	国内外製薬メーカー向け医薬中間体	医薬中間体は主力製品が堅調に推移したものの、一部製品の製造を終えたことにより販売数量、売上高ともに減少いたしました。

電子材料



2021年度の業績

売上収益

99億90百万円

前年度比
9.6%増

2021年度の振り返り

半導体業界は、パソコン、スマートフォン、データサーバー、5G高速通信、車載用などの半導体需要の増加により、引き続き堅調に推移いたしました。フラットパネルディスプレイ業界は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う巣ごもり需要は落ち着いたものの、液晶・有機ELディスプレイともに需要は堅調に推移いたしました。

2022年度の基本方針

半導体材料は旺盛な需要が継続するため、顧客のニーズに確実に対応していきます。フラットパネルディスプレイ材料は、2023年完成予定の新規設備の早期稼働を目指すとともに、新製品開発を進めてまいります。

●重点的な取り組みについて

当社は、半導体やフラットパネルディスプレイの製造に使用されるフォトレジスト材料において、業界トップクラスのメーカーとの新しい材料の提案や共同開発を通じ、製品化に貢献しています。主力パネルメーカーの拠点がある韓国では、現地メーカーとの合弁会社によりシェアの拡大に努めています。液晶パネルの価格低下に対し、製造プロセスの効率化など積極的にコスト低減を図り、顧客の増加で需要の拡大を目指します。フラットパネルディスプレイ材料において、高性能・高品質な材料開発を顧客とともに精力的に進めています。

イメージング材料



2021年度の業績

売上収益

32億 59百万円 前年度比 72.2%増

2021年度の振り返り

写真業界では、新型コロナウイルス感染症に対する規制緩和に伴う各種イベント等の再開の影響を受け、インスタント写真の需要が回復いたしました。印刷業界では、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い減少していたオフィス向け需要は規制緩和に伴い回復基調にあります。しかしながら、インクジェットなどのホームユース向け需要は鈍化いたしました。

●重点的な取り組みについて

画像表示材料は、スマートデバイス等の材料にも使用されており、多岐にわたる用途への展開を目指しています。また、ディスプレイの高精細化に伴う高性能・高品質な材料開発を顧客とともに進めています。さらに、電子写真用や印刷用の記録材料の開発も手掛けており、新製品の試験生産から商用品の量産化の体制を整え、高品質な記録材料を提供するなど今後も主力製品群の拡販に向けて取り組んでまいります。

2022年度の基本方針

フィルム材料は堅調な需要に継続して対応します。また、中長期的な成長を見据えた新製品開発にも積極的に取り組みます。写真材料・印刷材料は回復が予想される需要に対応します。

医薬中間体



2021年度の業績

売上収益

10億 28百万円 前年度比 17.8%減

2021年度の振り返り

医薬品業界では、世界医薬品市場は拡大しており、国内医薬品市場も前年より、増加に転じました。

●重点的な取り組みについて

ファインケミカル製品の開発で培ってきた技術力の活用と新規技術の積極的な導入により、主に国内外の大手製薬メーカーからの受託製造を進めています。開発活動においては、市販原薬および治験薬など様々なステージにおける中間体の開発に取り組んでいます。迅速な対応が求められる納期および品質への対応や、コストダウンに向けた製造プロセスの提案など、顧客ニーズに合致した開発活動を継続してまいります。

2022年度の基本方針

顧客の安定した需要に対して、当社主力製品の安定した提供を継続します。将来的な新製品開発などにも対応できるよう人材育成にも取り組みます。

オープニング

価値創造ストーリー

事業戦略

SDGs・ESGへの取り組み

データ集

研究開発とCSR基本方針

R&D/CSR Policy

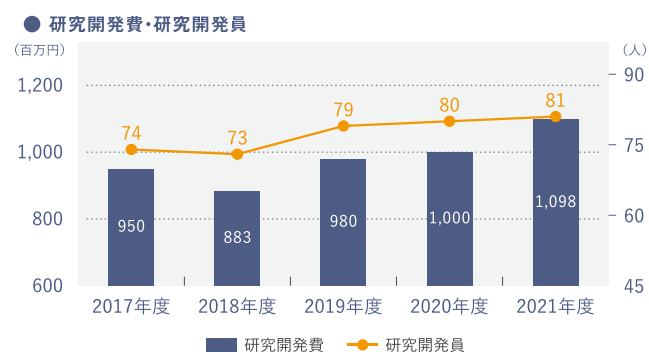
研究開発

SDGsを意識したイノベーションによる

競争優位性の高い革新的製品および技術の開発を推進

電子材料は、当社の主な事業分野であり、半導体集積回路のさらなる微細化、自動車のエレクトロニクス化、スマートフォンやタブレット端末等のスマートデバイスの需要により、今後も成長が見込める分野です。微細化に向けた最先端のArF液浸材料およびEUV材料開発においては、顧客の開発スピード・高度化する品質要望にタイムリーに応えるため、技術開発センターの試作ライン、福井工場の量産化専用ライン、そして極微量元素分析装置の充実を図るなど、少量試作から、量産までの一貫した製品開発に積極的に取り組んでいます。日々高まる顧客からのコストおよび品質要望に対し、技術開発センターで開発された製品の競争力をより強固なものとするために、長年培った合成技術と最新の知見に裏付けされた技術とを融合させた生産技術力を駆使し、究極的な製造法の確立を目指し改良研究を行っています。製品のコストおよび品質競争力は、

生産過程のトータルとして、その結果を集約しています。法的、社会的要請も遵守し、ISOなど品質システムを見直しながらさらなるコストダウンを推進してまいります。



VOICEインタビュー

開発に対する思い

当社では、技術担当者がラボ実験～工場での製品立ち上げまでを一貫して担当します。私は主に、印刷材料やディスプレイ材料等の色物製品の開発に携わっており、開発を行っていく中で、顧客へ安定して良好な品質で、製品を納入することを大切に取り組んでいます。実機製造時に想定外のトラブルもありますが、常日頃から多く実験を行い、課題を抽出し早期解決に導くことで、トラブルのリスクを最小限に抑えることを心掛けています。検討は大変ですが、目標通り実機製造を終えることができた時、身が震える程の達成感があります。これから先、製造が成功しても油断せず、常に目を鋭く光らせて安定製造を目指します。



技術開発センター
機能性材料開発グループ
吉田 智紀

CSR基本方針

当社は、社会の発展に貢献し、社会の期待に応え、社会から高い信頼をいただける会社を目指し、企業存続の根幹をなす法令遵守を始めとした企業倫理活動と「モノづくり」に欠かせないレスポンス・ケア活動を二つの柱とし、CSR活動に取り組んでいます。

主な活動		関連するSDGs								掲載ページ
E 環境	省エネルギー・省資源									▶ P15
	廃棄物管理									▶ P16 ~ P18
	化学物質の適切な取り扱い									▶ P16 ~ P18
S 社会	法律、規制、要求事項等を遵守									▶ P19
	職場の安全衛生、ハラスメント									▶ P19 ~ P22
	人材育成									▶ P21
G ガバナンス	法律、規制、要求事項等を遵守									▶ P23
	基幹システム対応									▶ P24
	情報の管理・保護									▶ P24 ~ P25